

## ブドウ「紅伊豆」の長梢一文字整枝法

園試大迫試験地

### 1. 背景とねらい

本県では、紅伊豆の平地での整枝はX型長梢整枝（4本主枝）を標準としている。この整枝は、①樹冠の拡大が早い②樹勢に応じた剪定量の加減がし易い③棚面全体を均等に利用できる④結果母枝および新梢の選択が自由に行いうる等の優れた長所を持っている反面、整枝剪定の習得がやや困難であり労力も要する、また、主枝間のバランスを崩し樹形を乱し易い等の欠点がある。そこで、X型整枝よりも仕立て方が容易な平地での長梢一文字整枝法について検討した。

### 2. 技術の内容

#### 1) 本整枝の特徴

- (1) 主枝が2本（従来は4本）であるため主枝間の勢力バランスを維持し易く、経験の浅い生産者でも整枝剪定が容易である。
- (2) 若木時代はX型整枝に比べて樹冠拡大が遅れ、1樹当たり収量はやや低くなる傾向がある。
- (3) 果実品質は同等である。

#### 2) 仕立て方法

- (1) 主枝本数は2本とし、主幹から第1主枝及び第2主枝をそれぞれ反対側に一文字に構成する。主枝上には数本の垂主枝および側枝を配置し、最終的な樹型はひし形を目標とする。

- ① 植付け～4年目頃：X型整枝に準ずるが、第3、4主枝は構成しない。幹から2.5m前後離れた位置から垂主枝候補を順次養成する。各主枝植上の第1垂主枝は反対方向にとる。
- ② 5～10年目頃：主枝延長枝はまっすぐに延ばす。第1垂主枝は返し枝として勢力を抑制するとともに、それより幹に近い枝は追い出し枝として短期間利用し早めに除去する。

主枝の延長と共に垂主枝を交互に配置する。間隔は基に近い部分では1.5m程度とし、先端に近づくとつれて狭くする。主枝と垂主枝の分岐角度は幹に近い程大きくとる。

第1主枝と第2主枝の勢力差は7：3から6：4程度とし、第1主枝の衰弱を防ぐ。

以後、垂主枝は、長大化して隣接樹と交差しないよう切り戻す。

### 3. 指導上の留意事項

- 1) 垂主枝は大きくしすぎないように特に注意する。
- 2) 主枝本数が少ないことから、特に若木時代は強剪定にならないように注意する。
- 3) 樹勢安定のため、樹冠の拡大を図る他、剪定時に芽数を多めにしておき芽かきで調整する。また、剪定部位を棚下に下げたおき夏期（実止り後）に切除することも効果がある。
- 4) 10aあたり植栽本数は、植付け時は5～6×4～5mの50～33本とし、間伐後の最終本数は12～8本程度を当面の目安とし、地力等により増減する。
- 5) 縮間伐は時期が遅れないように実施する。

#### 4. 成果の具体的数字

表1 果実品質

定植 年数	房重(g)		粒重(g)		精度(Brix)		酸度(g/100ml)	
	一文字	X型	一文字	X型	一文字	X型	一文字	X型
3	340	388	11.2	10.5	17.4	17.0	0.51	0.62
4	214	200	11.7	12.3	19.0	18.0	0.44	0.54
5	327	344	10.8	12.2	18.6	18.2	0.50	0.50
6	424	444	13.2	13.5	17.4	18.0	0.59	0.56
7	338	315	13.9	14.6	17.2	17.8	0.60	0.54
8	261	243	9.7	9.1	18.8	18.8	0.49	0.49
	317	322	11.8	12.0	18.1	18.0	0.52	0.54

表2 樹冠面積および収量

定植 年数	樹冠の広がり(m <sup>2</sup> )				着房数 (房/樹)		1樹収量 (Kg)	
	樹冠拡大 <sup>z</sup>		樹冠面積 <sup>y</sup>					
	一文字	X型	一文字	X型	一文字	X型	一文字	X型
3	-	-	21	29	27	33	9.2	12.8
4	73	69	17	21	36	64	7.7	12.8
5	155	168	60	64	116	133	37.9	45.8
6	186	192	61	76	136	197	57.6	87.5
7	210	249	86	102	127	187	42.9	58.9
8	218	310	91	128	199	279	51.9	67.9

<sup>z</sup>: 新梢先端までの縦×横

<sup>y</sup>: 実質占有面積(剪定後の種枝から1mの範囲を投影法で算出)

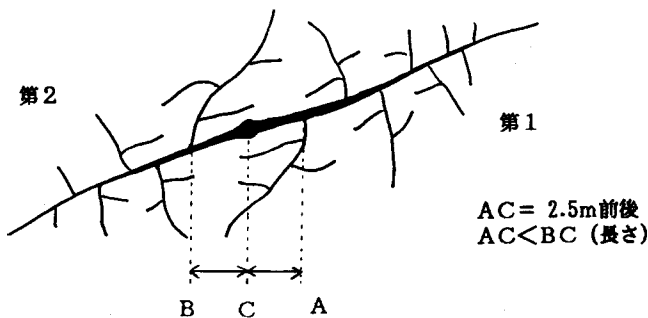


図1 長楕一文字整枝の目標樹形

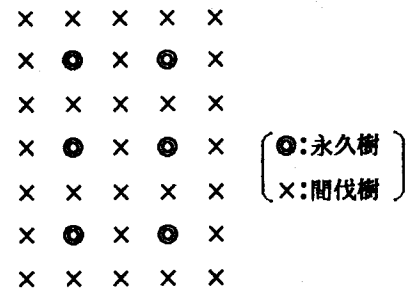


図3 永久樹と間伐樹の配置

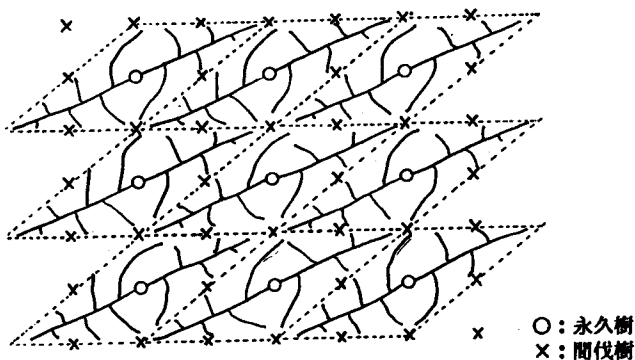


図2 長楕一文字整枝の主枝の配置